

会 議 録

会議の名称	第2回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	令和5年5月24日（水）午前10時30分から12時30分まで
開催場所	田無公民館 実習室
出席者	【委員】小西委員、島委員、石井委員、鈴木委員、大塚委員、小田委員、長谷川委員、山辺委員、伊尻委員、徳山委員、司城委員 （欠席）ギログリー委員 【事務局】金本庶務係長
傍聴者	0名
議 題	第1 委員紹介 第2 これからの図書館の方向性について（案） 第3 今後の日程について 第4 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市図書館計画策定懇談会委員名簿 資料2-1 西東京市_町名丁別_R050401現在_R04実績 資料2-2 図書館利用に関するアンケート（概略版） 資料2-3 開催日程（案） 参考資料 西東京市合築複合化基本プラン策定に向けた提言（図書館抜粋版） 参考資料 施設の現状分析・課題_課内検討結果_図書館計画・公マネ対応 参考資料 「図書館施設の現状・課題についての課内検討に対する意見」まとめ 参考資料 第2期からの図書館計画スケジュール及び検討・策定内容 参考資料 多摩26市図書館の状況
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>第1 委員紹介（今回から参加される委員） 山辺委員、伊尻委員、長谷川委員 自己紹介</p> <p>○座長 前回会議録については、ご発言の要旨は公開することになっている。今回はかなりの量だが、この量で公開するのか。</p> <p>○館長 会議録については、校正のため前回ご出席の委員にお渡ししている。これを全部公開という形ではなく、要旨の形にしたい。</p> <p>○副館長 話し言葉に手を入れたり、発言を縮小したりしたところがある。委員の発言の内容確認後、要旨にする作業を行う。二週間ほどで校正をして、6/7までに図書館あてに連絡をお願いする。次回には完成版をお渡しする。</p> <p>○座長 説明のように、前回の発言の記録は次回の会議に配布されて、それを各自見直して、ご自分の発言を趣旨にまとめていただきたい。</p>	

第2 これからの図書館の方向性について（案）

○座長 これからの図書館の方向性についての趣旨説明をお願いします。

○館長 配布資料をもとに説明。

図書館協議会が検討した「西東京市図書館に望むもの」の理念が基本方針にもこれからの図書館にもかかわる。「望むもの」に照らし合わせながら考えていきたい。

○座長 今、館長から配布資料の説明と第2議題の図書館の方向性について言及された。私の理解では、西東京市図書館計画という紫の冊子の次のバージョンを作るのがこの懇談会のミッションであり、基本方針について図書館側の原案を議論する形になると思う。その前に私たちは、そもそも西東京市の図書館をどうしたいのか、図書館に何を望んでいくのか、市民はどんな図書館を望んでいるのか、あるいは、議員を含めた行政の方々は、どんなお考えをもっているのか、これらを伺っていきながら、私たち自身が、この図書館の将来や方向性に対しどう考えているか、意見交換をしていきたい。今日はまずこの資料について、それぞれの感想なり、また、副座長からは、図書館協議会での議論も踏まえて、ご意見をいただきたい。

○館長 図書館協議会での話は、私から説明する。

○座長 15歳以上の西東京市の図書館に何を望むかというアンケートが出ている。前回副座長からの要望に応えたクロス統計も色刷りで出されている。これを取り掛かりとして自由に意見をいただきたい。

○館長 図書館協議会で協議した内容を説明。

市民にとっての図書館とは何か、必要と思われる施設であるには、という視点での計画に反映させたいと考えている。

○委員 「市民にとっての図書館とは」の館長の提起に「市民の中に図書館を」という半世紀前のメッセージを思い出す。本を市民に手渡すことが図書館の使命と受け止めて、多摩地区の自治体が市民とともに図書館づくりを始める。時代とともに図書館は成長するが、本あつての図書館という原点を押さえた西東京市の図書館を考える第一歩にしたい。

○委員 図書館には本があり、読み聞かせがあり、本との出会いが人生を拓く。本を読むことは、テレビや映像を見るという受け身ではなく、自主的で能動的な行為であり、人生の大きな糧である。図書館は多様な事業を行っているが、ホームページにアクセスすれば、どんなサービスをやっているか、どんなプログラムがあるかがすぐわかり、広報努力が足りないという意見には賛成できない。人口が多い他地域では潤沢な予算で立派な図書館を建て、音楽なども含めて多様なサービスがあるところもある。西東京市は20万都市として、中央図書館が貧弱だという意見はあるが、限られた条件の中で職員は頑張っていると思う。

また、海外の小都市で、拠点の図書館以外は、無人の図書スタンドが各所にあり、自由に貸し借りをしている。このネット時代になっても、図書館の紙の本が行き渡るように工夫されている。私自身はタブレットで新聞を読み、電子書籍の便利さは実感している。しかし、紙の本が大好きで、定期的に図書館に通う。本を読むことの価値、紙の本の大切さはこれからも変わらないと思う。

- 副座長 やっていることが伝わらないということは、古くて新しい議論だが、図書館は、一人一人の市民とのサービスだと思う。それは、学校とか、公民館とは違う。図書館は、一人で、誰でもが利用できる場所である。一人に対して、図書館がどういうふうサービスをするか、対応するか、というところがとても大事だと思う。実際には、自動貸出機を入れるとか、人と人とのつながりがシステムとしてずれてきている。中央図書館ほど大きな図書館になればなるほど、一人対一人がもっと希薄になる可能性がある。例えば、子どもであれば、資料提供したり、おはなし会したり、行事があるけれども、そうではなくて、名前がわかるような、例えば「子どもクラブ」とか、「子ども司書」みたいなシステムを作ることが、大事なのかなと思っている。
- 委員 人と人との出会いとつながりを保障する空間（施設）、計画（事業）を明示する図書館づくりを願う。
- 委員 図書館のPR方法の工夫も必要であるが、市民が『こんな図書館なら行ってみたい』と思うように、公園のような環境やカフェや商業施設などを併設した新たな図書館を考える必要がある。
- 委員 自分は図書の貸し出しが主だが、この基本方針の中に読書会とある。読書会の効用というのは参加してみないとわからないが、ある本があって、例えば5人参加者がいると、その本に対するとらえ方も5通りの言葉で聞くことができ、フィードバックもあり、理解がより深まる。こういう行事も大事ではないかと思う。
- 委員 公民館では、利用しない人にどのように知ってもらうことが課題としてあった。図書館を利用していない人に貸出し以外の取組みをいかに伝えるか。ホームページがあること自体を知らない人に、知ってもらう方法、本は購入するという人に、貸出しだけではないことを伝える方法は難しい。公民館でも同じことがあり、全戸配布していても「公民館だより」を読んだことない人がいる状況にどう対処できるのか、話し合ったことがある。それと、保谷庁舎の跡地に、図書館もあり、ランチを食べて、遊ぶスペースやボールプールのあるような素敵なものができたらと考えるとワクワクしてくる。
- 委員 使わない人にどう伝えるか。そこにニーズがあると思う。高校も本当にいろいろで、通信制高校に通う方が増えている。校舎を持たず、施設を借りてスクーリングを実施する高校もあり、学校図書館がないこともある。その生徒たちにとって、本を探せる場所は公共図書館。図書館は市民が本に出会う場所として本が好きな大人のいるような家庭で育ったお子さんにとっては、当たり前ですが、お子さんの中には、学校図書館すらない状態で、自分の勉強をしていかないといけない人がいる。彼らにとって公共図書館というのは、勉強する場でもあるし、本と出会う場でもあるし、そういう大人と出会う場でもあると思う。中学生、小学生でも、うちの中で、勉強部屋がない、そういう環境すらない、うちに帰るのも嫌だ、と思っている子ども事実としているので、休み時間とか学校以外の場所で、過ごしなくてはいけないときに、図書館に来ていいよ、図書館はちゃんと安心していられる場所だよ、ということが伝わるアピールはしていただきたいと思う。中学三年生が卒業するときに、図書館から卒業したら来てねというカードを渡している。こういうひとつひとつが、積み重ねることによって、今すぐに利用する状態にならなくても、図書館は行ってもいい場所と認識してもらえたらよい。つながりを持つためには、ホームページ以外でSNSから発信する時代が来ていると思う。子どもたちは当たり前を使って情報

を集めているので、そこに何らかのアプローチができるとよいと思う。
母子保健の方で妊娠したお母さんのためにアプリを作って今はスマホで市とつながれるようになってきている。図書館もやればよいと思う。利害関係を目的としない公共施設だからこそ、図書館を大事にして欲しいと思う。出会うだけではなく、その人の人生の次につながる場所として、すごく必要と思う。

○委員 人口20万人で登録者は15パーセント。どうやって登録率を上げていくのか、PRもあると思う。アンケートを見ると、利用している方のアンケートなので、利用していない方はどうして利用していないのか、手が届いていないところに、どう切り拓くのか、工夫すればできるのか課題。

保谷庁舎の跡地について、このスケジュールでは、2038年に新中央図書館建て替え工事、15年計画で、市のハード面の対応に図書館の計画がどういうふうに入っていくのか。実は15年ではなくて急ぎで調整をし、中央図書館構想を立ち上げる時期に来ているのではないか。中央図書館でやるべきことと、駅前を中心とした地域館という構想の中で、市の方針が、すでに決まっているとすると、この計画の策定は意味を持たないことになるので、そのあたりの調整が必要。

あと、行政サービスの中のどこか一つを図書館が担うということがあると思う。子どもたちの支援、あるいは子育ての支援、外国人の対応をどうするのか。高齢化していく社会のいろいろなことに対応しなくてはならない、そういう多様化するニーズに、図書館が何を提示できるのか。その辺りで、もう少し何かできることはないのか。十分に対応できてない部分があるのではないか。

○座長 図書館の将来を考えていくときに、もちろん電子化への対応も必要で、市民の要求の中心がどこにあるのか見極めなければならないが、「人と人をつなぐ場である図書館に、読まれるべき本があること」という点を押さえていかなければならないと思う。将来の図書館というと、議員さんは新築の図書館を見学する。武蔵野プレイスでしたり話題の図書館の見学をする。私たちも、図書館の問題を考えると、いろいろな図書館をたくさん経験することによって、あるべき素晴らしい図書館を考えていける。

中央図書館構想を建てなければいけないというご意見、私も本当にそう思う。現状で当市が、私どもの希望満載の図書館をにわかで作ってくださるとは、期待しづらいのも事実。アークヒルズの六本木ライブラリーを作った磯井さんという方がいろんな活動を経て「まちライブラリー」という発想にたどり着く。この「まちライブラリー」という発想は、個人の喫茶店の人が本を置いたり、亡くなった方の蔵書を公開したりとか、私的ライブラリーだが、こういう発想と、公共図書館との活動を結びつける考え方もある。また、サードプレイスという考え方があり、学校でもない、家でもない、そういう第三の居場所というものが、図書館になるのではないか。私たちは、これからの図書館を考えていくときに、図書館という固定観念にとらわれずにいろいろな視点から考えていく必要があると思う。岡本真さんという方が、『未来の図書館、はじめませんか？』（2014年刊）に、未来の図書館についてさまざまな業界の方々のご意見をまとめて本にされました。読書リストが付いていて、図書館を考えるために必要な本を、何冊かあげてくださっている。これは図書館のことを勉強してみようという方には、役立つかもしれない。この統計やアンケート、これまでの中央図書館の合築の時の考え方とかいくつか資料が示されているので、これも踏まえてさらに、付け加えるご意見があれば、ご発言いただきたい。

○館長 まちライブラリーについて説明。

- 委員 まちライブラリーと聞いて、手づくりの地域家庭文庫を、そして「たなしこども文庫」をなつかしく思い出した。ニュアンスはともあれ、「まちライブラリー」の命はいまさら感がある。ともあれ、市民の身近に本を介して居場所を図書館ネットワークとして位置づけられたら、「市民にとっての図書館」との願いの一つを実現するのではないだろうか。
- 座長 町丁別の登録率を見るとやはり、多いところだと、22.5パーセント以上というのと、10パーセント未満いうところが出てくるわけですから、町丁別で見ても、登録率が倍違うというところが出てくるだろうと、思う。表だけ見るとよくわからないので、どうやってコメント入れていったらいいのかと、感じる。また、利用のアンケートは、経年別の経年変化は出せるのか。数字というのは比較をしないとなかなか見えてこないと思う。
- 館長 図書館に関するアンケートについて説明。
- 座長 今日の議論としてはこのぐらいにしたい。
皆様の意見として多かったのが、PRの問題。この登録率にしても利用全体を上げていくために、図書館をもっと多くの市民に知っていただかなければならない。大きな課題であり、この懇談会の中で、考えていく一つのテーマになると感じる。
本を基軸に置くことについて、先日、文庫化されたので、『シリアの秘密図書館』イヌーイ著 創元社 を偶然読みました。シリアのアサド政権下で、図書館が爆撃され破壊されたときに、若者たちが何をしたらいいのかと考え、瓦礫の中から本を発掘してそれらを集めて図書館を作る。その中には哲学書とか啓蒙書とかいろいろなものがあり、それを涙ながらに読んだということが書かれているが、それを読んで、そのような過酷な状態にあっても、到達する最後のところに、本を守り、本を読む人を保障していくということを考えるのかと感動いたしました。そんな過酷な状況ではないにしても、西東京市図書館を考えていくうえで、本を基軸にすることは念頭に置きたいと思う。

第3 今後の日程について

- 6月21日（水）午後2時から4時 イングビル
7月12日（水）午前10時30分から12時30分
8月9日（水）午後2時から4時
9月13日（水）午後2時から4時
10月18日（水）午後2時から4時
11月8日（水）午後2時から4時
1月31日（水）午後2時から4時
2月21日（水）午後2時から4時